

前例のない福祉避難所の 開設支援の経験

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部災害看護コース

石井美恵子

東日本大震災での活動

- 2011年3月22日～4月30日
日本看護協会・都道府県看護協会災害支援ナース現地コーディネーター
石巻市で福祉避難所の追加設置(2か所)をコーディネート
- 2011年5月1日～5月6日
NPO 災害人道医療支援会(HuMA)として支援活動
- 2011年5月7日～5月30日
個人的なボランティア
- 2011年6月1日～8月31日
石巻市の委嘱による
健康福祉アドバイザー



避難者の健康モニタリング

石巻市内の
17避難所・
避難者総数
4765人

4月14日現在

医療ニーズ
あり

•411人

要介護 •47人

精神
疾患

•24人

- *筋力低下
- *関節拘縮
- *エコミークラス症候群
- *肺炎
- *褥瘡(床ずれ)
(体圧40mmHg以上)
などのリスク状態



離床困難

体圧
100mmHg



*ご本人・ご家族の了解のもと撮影・使用

Assessment

地域対応策のモニタリングとプログラム開発

原則や知識・経験:

- 災害とはニーズと資源の不均衡
- 支援者はいずれ撤収する
- 役割不全感
- 福祉避難所ガイドライン

目標: 市立病院
急患センター職員の
役割不全感を予防するた
めの業務保障ができる

資源

- 県・市区町村
対策本部
- 医療・保健福祉
関連部署・担当者
- 医療チーム
- 支援者

目標: 被災地内支
援者の負担が軽
減できる

担当者の固定化

医療機関
中～軽症者

福祉避難所
要介護者
要援護者

避難所
一般の避難者

手段・方法
集約化

ニーズ

150ヶ所以上の避難所
避難者・病人・要介護者・
要援護者が混在

目標: 避難・歩行困難者が
安全な場所への移動
できる

多職種連携の実現

顔の見える関係：福祉避難所に関する合同会議の定期開催
情報と目標の共有：クラスター・アプローチ的問題解決法



活動: 要介護者支援ワーキンググループ会議(仮称)

平成23年4月15日(金)18:30~19:30

Needs(ニーズ)

- 避難所
要介護者が100人+α
全体の数の把握が必要
早急にアセスメントフォーマット作成
4/18~医療団へ調査依頼
- 4/21の始業式にむけて避難所の集約化がすすみ2300人があふれてしまう可能性がある
- **正確さではなくスピードが必要**
被災地域のローラー作戦 12,000世帯
4/15・16・17 3日間
罹災証明がでるエリア
他の地域は民生委員、行政委員へ依頼

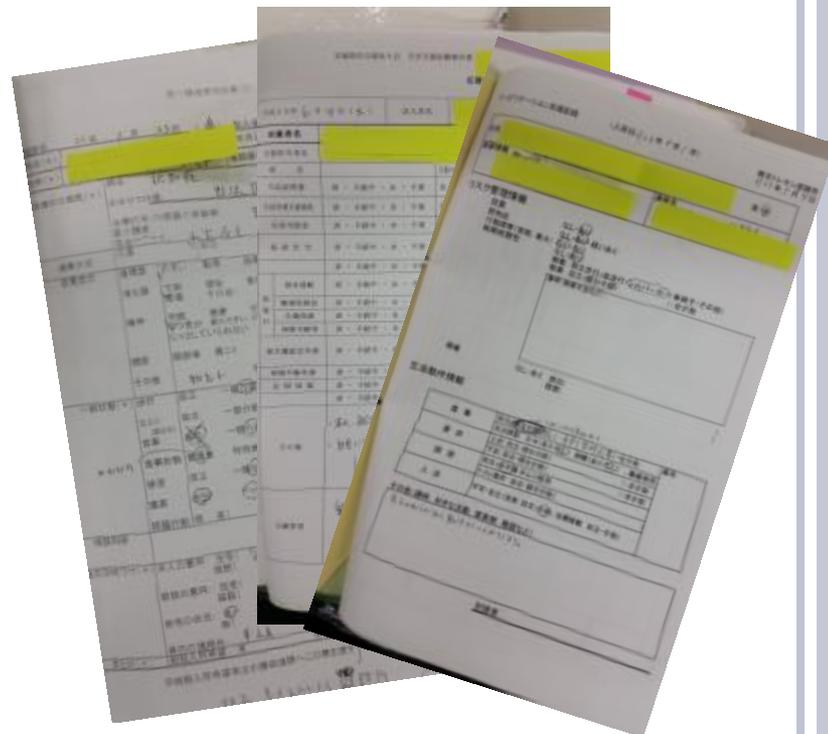
資源・対策

- 施設
市内○人、市外○人、県外○人
 - 地域
 - * 準福祉避難所に集約していく
(見込み収容人数は40~100人か)
 - * 準福祉避難所の設置の可否を
市担当職員が確認
 - * 介護保険課
一般の人の転所
要介護者の入所調整
- 【準福祉避難所】
- ①遊楽館 120(内50要介護)
ベッド80台
 - ②桃生トレセン
要介護者 50人程度
 - ③他の場所でも20~50人分を確保

複数の要支援・要介護者の評価指標や記録類

評価指標例

- 要介護度
- 日常生活自立度
- 機能的自立度評価表 等



記録類(チェックリスト)例

- 保健師が作成した記録
- 医療支援チーム独自の記録
- 看護支援者独自の記録
- リハビリ支援チームの記録
- 社協関係者の記録 等

さまざまな
指標・記録

今後の課題: 評価指標や記録の標準化(適応基準)

設 營



桃生福祉避難所「安らぎの郷」

水が出なくても
臭いがしない
ラップ式トイレ



活動を促進するために
バリアフリー化と
広い通路を確保

桃生福祉避難所(やすらぎの郷)



チーム医療・他職種連携の実現

- 石巻市健康推進課職員（事務職・保健師）
- 津波被害を受けた市立急患センターの看護師
- 災害支援ナース（県内支援）
- リハビリ10団体
- 社会福祉協議会からの社会福祉士
- 津波被害を受けた介護事業所の介護士等
- 栄養士
- 弁護士
- 医師



福祉避難所設置の成果：

- 要介護者の合併症予防
- 高齢者の日常生活動作の向上、心身の健康回復
- 施設等への入所手続きの円滑化、仮設住宅への入居
- 行政職員の自己効力感の向上

■福祉避難所：遊楽館

- ◆350人の要介護2～5の人が入所
- ◆市立病院職員がケアにあたった
- ◆ケースワーカーらが施設等への入所手続きを
すすめ9月末には閉鎖に至った

■福祉避難所：桃生トレセン

- ◆35人の要支援・要介護1の人と15名の家族が入所
- ◆リハビリによる日常生活動作の向上
- ◆日常生活動作の向上・心身の回復により
仮設住宅等への入居が可能となった

成果：機能的自立度評価

(FIM ; FUNCTIONAL INDEPENDENCE MEASURE)

	入所時FIM	退所時FIM	転帰
70歳代男性 A氏	5月〇日 合計68点	8月〇日 合計83点	約3か月後に 家族とともに 仮設住宅へ
	運動項目35点	運動項目50点 上昇項目 ・トイレ動作 ・移動・歩行	
	認知項目33点	認知項目33点	
70歳代男性 B氏	5月〇日 合計73点	9月〇日 合計108点	約4か月後に 家族とともに 仮設住宅へ
	運動項目40点	運動項目75点 上昇項目 ・更衣 ・トイレ動作 ・階段	
	認知項目33点	認知項目33点	